

みみタロウ

にほんごばん ☆122号 2017年2月

しがけんこくさいけいけいぼらんていあくろーぶ「みみタロウ」
滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
おおつし はま びあさ おうみ
大津市におの浜 1-1-20 ビアザ淡海 2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
f : https://www.facebook.com/siabiwako

わたしのせんたく 私たちの選択

今回のみみタロウは、大津市在住の大原羅若さん、マリシラさんご夫妻に、日本での暮らしや思いなどについてお聞きしました。



マリシラさん：夫は10年前に来日。私は自分の仕事や大学院での勉強で忙しく、2人の子どもたちとフィリピンに残って暮らして

いました。父親と離れて育っていく子ども達を見ていて、これでいいのかなあという思いもありましたが、そんな生活に区切りをつけるきっかけになったのが、東日本大震災です。それまで夫と毎日連絡を取り合っていたのが、2週間全く音信不通となって悲壮な思いをし、もうこれ以上家族が離れて暮らしてはいけなないと、日本で家族一つとなって再出発することにしました。これまでの経験を全て母国に置いて、異国でゼロからやり直すことには勇気が必要でしたが、家族には代え難いものでした。

今は、外国語指導助手として学校で英語を教えている他、フィリピンの北部が誇る織物、イナベルの紹介に力を入れています。イナベルは結婚式や出産など大切な行事に用いられ、昔は年貢に使われもしたでんとうきおりの伝統的な織物ですが、今後継者不足のため、継承が危惧されています。このため多くの人にイナベルのことを知って頂き、ビジネスにつなげたいと思っています。

日本は、保険制度や児童手当などの生活基盤を支える制度が整っていることで、安心して子育てできます。ですので、色々な制度について知り、上手に利用して生活に役立てたいと思っています。制度は、個人によってその適用内容が異なるので、私は疑問があったらすぐに直接市役所で相談するようにしています。もちろん、制度の恩恵を享受するためにも、義務を果たす良き市民であらねばなりませんね。

そして私たちが幸せに思うのは、ここでもさまざまな国の友達に恵まれていることです。3人目の子どもは日本で出産しましたが、その時も日本人の友達が子ども達のため、一ヶ月間毎日食事を運んでくれ、本当に嬉しかったです。ですから、私たちも心の温かさを多くの人に分かち合える生き方をしたいと思っています。

羅若さん：僕が妻と初めて出会ったのは、中学生の時。彼女は僕のあこがれの人で、中学4年生から付き合いはじめたんですよ。今にして思えば、二人とも幼い頃に家族と別れたという似たような体験があったので、深く通じるところがあったのかもしれない。ただ、僕は日系人なので、日本軍がフィリピンを占領した昔の戦争の歴史を知る彼女のご家族には、「どうして日本人と結婚するの」「何故日本へ行くの」という思いもあったようです。でも今は親戚も日本を時々訪れ、美しいこの国をとて気に入ってくれています。

日本は豊かな国で、何でも色々揃っています。仕事も沢山あり、あまりこだわらなければ生活もなんとかなるものです。だからこそ、ここで暮らす上で大切にしなければならぬのは、何を優先して人生を選んでいくか、ということだと考えています。僕の場合、家族を大切にすることがまず一番。仕事については柔軟に考えていて、何でもやっていると聞いています。

来日後、3年間は派遣社員で工場で働きましたが、その頃は寮で一人暮らしだったので、随分寂しい思いをしました。そして、多少給料が減っても家族のために安定した正職員になりたいと思い、デイケアや老人介護病院でお年寄り相手の仕事に就き、良い経験をしました。その後、10年来の日本人の友人がラーメン店に紹介してくれ、そこに勤務して2年になります。店では、料理を作ったり注文を取ったりと、なんでもしています。もちろん、客商売なので、日本語は必須。伝票の読み書きにも漢字が必要で、頑張って勉強しました。少々きついですがこの仕事が好きで、1年間のアルバイト期間を経て正職員にさせていただきました。何よりお客さんと「今日はどうですか？」と会話を交わすのがとても楽しく、仕事でも笑顔が絶える間がありません。好きだと仕事も苦にならず頑張れますし、頑張れば、どんどん自分の夢も広がると信じています。

外国で三人の子どもを育てるのは決して楽ではありませんが、子ども達の明るい将来を築くためにも、一家で力を合わせ、しっかり暮らしていきたいと思っています。